見守り新鮮情報

事例1 トイレに行こうと歩いていて**廊下の段差**で**転倒**した。**鼻**を**骨折**していた上、**くも膜下出血**と診断され入院となった。
（80歳代　男性）

事例2 パンを食べようとキッチンへ行ったところ、**トースターのコード**に**引っかかって転倒**。キッチンで**額**を打ち**出血**したため、病院に搬送された。
（80歳代　男性）

高齢者の生活動線を点検して転倒事故を防ぎましょう

ひとこと助言

- 家庭内で転倒し骨折するなど、高齢者の日常生活における転倒事故が報告されています。
- 高齢者は加齢等による身体機能の低下により、自宅のような慣れ親しんだ場所でも事故に遭うリスクがあります。高齢者の心身の変化に合わせて、家族などが家庭内の環境を再確認しましょう。
- 段差や電源コード、暗い場所など転倒の原因となりそうなものを減らしたり、家電製品の配置に気をつけたりするなど、高齢者の生活動線を点検することが大切です。
- 定期的に電話をかけたり訪問したりするなど、家族や周囲の人が高齢者とコミュニケーションを取り、様子を見守りましょう。

本文イラスト：黒崎 玄

見守り新鮮情報　第293号（2017年10月31日）発行：独立行政法人国民生活センター